

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 0770101897 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 ゆず福社会 | | |
| 事業所名 | グループホーム ユーズホーム | | |
| 所在地 | 福島市泉字台1-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成28年2月10日 | 評価結果市町村受理日 | 平成28年4月21日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaignokensaku.jp/07/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人福島県シルバーサービス振興会 | | |
| 所在地 | 〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3 | | |
| 訪問調査日 | 平成28年3月30日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族の理解と協力のもと、利用者がホーム外へ出かける機会を設けている。日頃の生活でも暖かい日は事業所内の中庭に出て季節を感じたり、地域の散歩や商業施設の利用など積極的に外出支援をしている。身体の体操や嚙下体操を日課として毎日行い、家事の参加や役割りが出来るように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 日頃の利用者との関わりの中で、本人の思いや意向を把握しながら、利用者一人ひとりの意向に寄り添った支援に努めている。また、家族は運営推進会議の中で、直接、希望や要望を表せる機会を設け、出された意見等をサービスに反映できるよう取り組んでいる。
2. キャリアパス制度を導入し、職場内外研修を実施し、職員の育成を図りながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | もっとも大切な「尊厳」という言葉を、職員全員が常に念頭に置いて関わる事を心がけている。支援をしていく中で、どのような声掛けや関わり方をするべきか会議などで話し合う機会を作っている。 | 利用者一人ひとりの人格を尊重し、その人の「尊厳」を最も大切に基本理念を基に、事業所の方針を明示し、事業計画を策定し理念を共有している。また、全職員で利用者に対する言葉かけや対応について、会議等で確認しながらサービス提供に繋げている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 運営推進会議を通じて意見交換し、相互に交流の場に参加できるよう働きかけている。夏祭り開催や見学、体験活動などを積極的に受け入れて交流をしている。運動会や芋煮会にもお誘い頂き参加している。 | 日常的な散歩で挨拶を交わし、地域の行事や小学校行事への参加等で交流を図るよう取り組んでいる。また、保育園児や小・中学校生徒の体験活動、ボランティアを受け入れ地域との交流を深めている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議などで地域の代表の方々と話し認知症の理解を求めながら、ご家族様のご意見を頂いている。包括支援センターの方に助言していただく事もあり、地域での勉強会参加もしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている | 運営推進会議ではホームでの活動などを報告し、ご意見を頂いている。ご家族様が知りたい情報や現在の状況について話し合う事もあり、夏には夜間想定避難訓練を会議の中で実施している。 | 運営推進会議は定期的開催されている。会議では事業所の活動状況や利用者状況等を報告し、委員から忌憚のない意見や提言を頂き、それを運営に反映している。また、家族は委員として全員参加できるようにしており、行事や避難訓練に参加し率直な意見をもらい、それをサービスに活かしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 今年度は介護保険の改正や実地指導があったので、電話の問い合わせをはじめ改善点や不明な点について連絡することも多く、ご指導いただいている。また地域ケア会議に参加して勉強させて頂いている。 | 市の担当者とは介護保険の改正点や自己評価、利用申し込みに係る課題等について、相談しアドバイスを頂くなど、協力関係を築きながら取り組んでいる。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 危険が伴いやむを得ないと判断した場合は、家族と十分話し合いご家族が望み理解したうえでのみ同意書を得、それ以外は付き添うケアに努め身体拘束にならない支援をしている | 権利擁護等の研修を通し、利用者の人権等について学習し、利用者の尊厳を大切に身体拘束をしないケアに努めている。日中帯の玄関等の施錠はせず見守り等で支援しており、夜間帯に生命の安全確保が必要な場合は、家族・職員で話し合いルールに則り対応することとしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 内部研修で勉強したのを機会に改めて自分の行為が虐待になっていないか、また職員同士がお互いに注意し合っているか利用者の行動を考えて話し合い意識を深めた。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 制度を利用する方がいないこともあり、活用の機会はないが、必要とされた場合にスムーズ対応できるように、職員全員で話し合いの場を設けたが深く理解するまでには何度も勉強会が必要。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約に関しては管理者が責任を持って説明している。疑問などには理解を得るまで十分な説明を行い、不明な点などについては、常に問い合わせが出来るようにして納得していただいている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議の時に意見交換の機会を作り、利用者やご家族の要望等を反映するようにしている。また、常に意見や要望があれば報告するようにして職員へも周知している。個別連絡ノートも活用し情報の共有を図っている。 | 日常生活の中で利用者の意向や希望を把握するよう努めている。また、家族からは運営推進会議に全員参加できるようにし、意見や要望を聞き運営に反映できるよう取り組んでいる。さらに、家族と職員との個別連絡ノートを活用し齟齬が生じないよう情報の共有を図っている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員会議等、話し合いの場を持つたりできるだけ職員の声を拾えるよう努めている。人員がなかなか整わず厳しい状況のなか研修などの機会を作り、職員のレベルアップを図っている | 施設長や管理者は、日頃から職員の声に耳を傾け、意見や要望等を把握するよう努めている。また、会議やアンケート等で職員が意見や提案を出せる機会を設け、出された意見を運営に反映できるよう努めている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 管理者を通じて、職員の勤務状況や実績は報告している。可能な限り、勤務調整を行い職場環境整備に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員の人数や勤務状況から行きたい研修等に参加できない状況を踏まえ労働安定センター、介護福祉会などに依頼し研修の機会を作っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム協議会の一員として地区の会議をはじめ各種会合等に積極的に参加や協力をしている。交流から情報交換をして学び、ケアの向上につなげている。 | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | アセスメントからご本人の希望や思いを見極めてサービスを提供している。安全に安心した生活が送れるように、日々会話や関わりを多くして信頼関係が築けるように努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 利用前にホームの特色や体制、力を入れているところなどを説明し、入所時に要望等を十分聞いて、その後も連絡や確認等をする時や面会時など、不安や要望などないか伺うようにしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 介護支援専門員や担当職員が中心になり、本人や家族の要望を聞いて、今必要としているサービスを具体化しサービスにつなげている。また、他に支援が必要だと判断した点についても相談、検討をするように努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 家事や日々の生活の中で、それぞれが役割を持ちながら助け合える関係作りに努めている。何をすることも共に助け合い、譲り合い、お互いに感謝し合い、楽しく生活できる雰囲気作りをしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族の協力が必要なことを会議や交流の場など会話の中で話し、理解していただき、一緒に考え、悩みながら共に支えていけるような関係作りを心掛けている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 今まで続けてきた活動や馴染みの方との交流が継続できるよう、面会や外出の支援に努めている。 | 友人や知人の訪問があり、職場の元同僚など、本人がこれまで培ってきた人との関係が継続できるよう支援している。また、行き付けの美容院を利用したり家族と墓参りに行くなど、関係が途切れないよう支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 耳が遠いことや会話が難しいことなどから利用者同士の関わりが持てないことがないように、さりげない会話のサポートや関わりをしながら、出来ない事を助け合えるような支援に努めている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 利用が終了しても、必要な相談や支援の依頼があれば協力している。その後の関係性も大切にしている。 | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | その方らしい生活が出来るよう、また意向に沿った暮らし方が出来るよう把握に努めているが、難しい場合もある。その場合は別な方法や形で対応するなど、話し合いを重ねて取り組んでいる。 | 日常生活の中で利用者の言動や行動から意向や希望を把握するよう努めている。また、困難な場合は、家族からの情報や仕草、表情等から利用者の意向を汲み取り、本人本位に検討している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 家族の協力や本人との会話の中で知り得た情報などをもとに馴染みの暮らし方が出来るよう環境を整えサービスの提供をしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 心身の変化に合わせて、出来る事、出来ない事を見極めてレクリエーションなどの活動内容や過ごし方の提供をしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | センター方式をもとに、職員全員がEシート記入をして意見を出し合い、担当職員と計画作成担当者が中心に本人と家族の意向を確認して課題とケアの在り方に必要なことを介護計画に反映させている。 | 介護計画の見直しは、3ヶ月毎に行い、担当職員がサービス提供状況をまとめ、日々の記録を参考にしながら職員が意見を出し合い、利用者や家族の意向を反映した介護計画を作成している。また、心身の状態変化に応じた介護計画の見直しも実施している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別記録は介護計画に沿った実践をその時の本人の様子や発言などを含めて記入して情報共有し、合わせて更に必要な場合にケア検討として随時提案、実践し、その後の見直しに繋げている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 個々の状況や希望に合わせ、可能な限りサービスの幅を広げていけるように支援の協力依頼や相談をして事業所全体で取り組めるようにしている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 状態の変化により近隣への外出などは以前より減っているが、今年は町内会の行事に参加して交流を図れることが出来たことで地域の一員として楽しむ機会が作れた。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人状況や変化を「受診連絡」という文書と口頭でお伝えして、ご家族に受診を依頼している。戻った際に話を聞いて「受診報告」という文書にて職員全員に周知している。必要に応じて、家族に報告の上、直接主治医と連絡相談をすることもある。 | 希望の医療機関を受診でき、通院は家族対応としている。受診状況は職員記載の「受診連絡」と「受診報告」で共有している。また、処方新薬については、家族了解のもと、直接主治医に生活状況を報告し相談することもある。訪問看護ステーションの看護師と24時間オンコール体制を整えている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 常に連携を図りながら情報共有し、相談しながら主治医との連携、家族への説明協力などをしてもらっている。利用者の健康管理や緊急時対応など指示を仰いで共に支えている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 利用者の方が入院した時には、医療機関の担当相談員の方と電話や訪問により密に連絡を取り合っている。今後の治療計画や退院の見通し、また本人状態やホームの受け入れ状態など情報交換しながら相談させて頂いている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所時に重度化した場合の対応についての指針を説明し同意を得ている。終末期におけるご本人やご家族の意向を状態や変化に合わせ確認させていただいている。ホームで出来る事と出来ない事を明確にして会議などで説明し周囲の協力をお願いしながら支援している。 | 入居時に重度化や終末期の対応について、「重要事項説明書」と「看取りに関する指針」により説明し、同意を得ている。今まで看取り介護の実績はない。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 回数的に少ないのが現状ではあるが、職員同士で話し合い、訪問看護師に指導を依頼したりして対応の流れ、マニュアル作成をしている。AEDの講習も受けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 火災の訓練は毎月実施している。地域の方、家族の協力がなくと実質的には難しい事などは会議等で理解は得られているので協力体制については進行中で早急に整備したい。 | 非常用備蓄品を準備しており、毎月、火災を想定した避難訓練を行っている。夏には、運営推進会議開催時に、夜間想定避難訓練を実施している。また、年1回、隣接同法人事業所との火災訓練で、通報訓練や消火器の使用法等の訓練も行っている。なお、安全な避難経路の確保については、最善の方法を検討中である。 | 火災だけでなく、地震や風水害等あらゆる災害を想定(夜間含む)した訓練を実施し、全職員が実体験できるよう取り組みが望まれる。 |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 尊厳を忘れず会話し対応している。利用者の方は常に不安で他者の発言や何気ない会話にとっても敏感なので、直接の会話だけではなく職員同士、ご家族、見学などの来訪者との会話にも配慮している。 | 尊厳について職員が理解しており、外部研修等で得た人権・人格の尊重等について職場内研修で共有し、利用者とは話す時は目線を合わせ、さりげない誘導をするなど、普段の介護に反映させている。また、自己決定しやすいよう選択肢を複数示している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 自己決定出来る方には希望を聞くようにしている。気持ちや思いをうまく表現出来ない方には、本人の好みを把握し一緒に決めたり、選択する方法で決めていただくなど工夫し支援している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 意思決定が難しい方など、起床時間や就寝時間、食事の時間などホームの予定に合わせて行動を促している傾向はある。その人らしく過ごせるような流れを職員側が作っていく必要がある。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 入浴時など着替えを準備する際は一緒に洋服を選んだり、その方らしいおしゃれが出来るように支援している。本人から衣類や髪形など希望があった時はご家族に伝え協力していただいた。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている | 買い物に同行していただき一緒に食材を選び、皮むきなど出来る家事に参加していただき、料理の説明や作り方の相談など楽しく会話をしながら同じ昼食を食べている。 | 日常会話で把握した、食べたいお惣菜やおやつなどを献立に反映させており、利用者は買い物やものやしのヒゲ取り、後片付けなど、楽しんで家事に参加している。また、献立は彩りよく目で味わえるよう配慮し、職員と一緒に会話しながら和やかに食卓を囲んでいる。行楽を兼ねた外食も行っている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | それぞれの年齢や身体状況などに合わせて必要な栄養や水分が摂れるよう支援している。排泄状況やその日の状態も考慮しながら、すすまない方には必要に応じて声掛けや介助をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | それぞれの状態に応じて、口腔内の清潔を心がけている。自力で出来る方には忘れないようさりげない声掛けと確認を行い、介助が必要な方については支援をしている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 場所の認識が困難な方には付き添いを欠かさない事で失敗を減らし、少しのお手伝いで自立可能な方に関しては、排泄パターンやタイミングを把握することでスムーズな排泄や動作に繋げている。 | 利用者の排泄パターンをチェック表で確認しながら支援している。男性用、女性用トイレ表示を大きくし分かりやすく掲示している。リハビリパンツは、家族の意向(使用量軽減等)も反映しながら、利用者にとりげなく声掛けをして交換を促している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘から食欲不振や落ち着かない行動にならないように、食事や運動への配慮、医療機関との連携により対応方法をそれぞれ個別に検討し、早めの予防と対応を心掛けている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 可能な限りゆったり楽しく入浴できるよう支援しているが、突然入浴を要望することもあり対応できない時もある。現在は人員的な問題で夕方～夜間や毎日の入浴は出来ていない。羞恥心がある方にはタオル等の配慮もしている。 | 浴室と脱衣室の温度管理を行い、個浴でお湯を取り換え、1日3人が入浴している。利用者に対する羞恥心の配慮もなされており、梅雨の時期は、坪庭のアジサイを眺めながら入浴ができる。今年、ユズ湯等の季節風呂も復活させる予定である。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 眠剤を使っても眠れず不安から安眠出来ない方も時々いる。静かに眠れるような対応に努め、音や室温や明るさなどの環境整備には配慮している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 主治医や訪問看護師、薬剤師などと連絡を取りながら、薬の管理や調整、症状の変化確認などを行っている。実際に薬の変更後に様子の変化があり主治医の指示のもと中止した例もある。その都度ご家族に報告と了解をいただいている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 日常生活の中で無理なく自然に続けられるように日々の役割を見つけたり、それぞれが好きな事、得意な事を楽しく行い気分転換できるよう支援している。買い物に同行し好きなおかずやおやつなどを選ぶような機会を作っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 外出支援に力をいれているが、家族の希望により戸外へなかなか出られない利用者もいる。地域との交流やその人らしい暮らし方の実現には家族の方の協力も必要なので、理解を得て支援する必要がある。 | 運営推進会議に参加された家族の意見も取り入れ、職員確保の都合上休止していた外出支援に再び力を入れ始めた。地域の行事参加の他にも、写真好きの利用者が持参したアルバムをきっかけに季節の花を愛でるドライブに出かけるよう支援している。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 基本的にはお金の所持は難しいため職員が管理保管している。使いたい状況がある場合には職員が付き添い見守り支援することもある。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人が希望した場合には可能な限り電話や手紙が出来るよう支援している。その後に混乱することも多いが家族に説明し協力をいただいている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 常に共用空間は季節感を感じられるように飾り等工夫している。限られた広さの中なので利用者間で混乱や不快を招く状況は職員が支援をしながら照明や室温、清潔感には配慮し、安全で居心地よく使いやすいようにしている。 | 季節感あふれる壁面飾り、楽しかった行事を伝える写真、利用者の作品なども展示して心地よい空間を演出している。冬期間の乾燥対策として加湿器も設置している。天気の良い日は、中庭に設置したベンチで季節を満喫しながら過ごす利用者もいる。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 季節的に廊下サッシ前が憩いの場所になっていて食事の後や昼寝前後など気の合う利用者様同士で談笑される姿がみられた時期もあった。ホールではお茶を飲んだり手作業を一緒にしたり1人1人思い思いに過ごして頂いている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている | 使い慣れた家具や生活用品を持ってきて頂いてそれぞれが落ち着いて過ごせるような空間作りを担当職員が中心になって工夫している。衣類の管理が難しい利用者様の居室の整理整頓が安全性と衛生面から課題となっており、家族に相談したり対応をとっている。 | 入居時に自宅からタンスやテレビ、お気に入りのアルバムなど、それぞれに好きな生活用品を持参して暮らしている。訪問時、家族がペットを連れてくることも可能である。衣類の整理が難しい利用者には、引き出しに名札を付けるなどして支援している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 分かりやすいように案内表示を取り付けたり、動きやすい動線の確保に努めている。日常生活動作が安全に自力で行えるよう日々検討を重ね対応している。 | | |